

# ジャウイ文書研究会ニューズレター

第7号 2002年11月9日

発行者：ジャウイ文書研究会事務局

〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1

電話 03-3238-3697 Fax 03-3238-3690

上智大学アジア文化研究所 川島緑研究室

e-mail: midori-k@sophia.ac.jp

## 目次

I. 研究会予定	p. 1
II. シンポジウム「ジャウイ文書研究の可能性」案内	p. 1
III. マレーシアの図書館におけるジャウイ雑誌の所蔵状況 .....山本博之（東京大学）	p. 3
IV. 研究会記録 第14回研究会(2002.10.12)	p. 14

## I. 研究会予定

**2002年11月9日(土)** 上智大学

**2003年1月26日(日)** 上智大学

**2月15日(土)** 場所未定

詳細は追って連絡いたします。これまで本研究会のご連絡を受け取っていない方で、今後、案内を希望される方は事務局にその旨、ご一報ください。

## II. シンポジウム「ジャウイ文書研究の可能性

### － 壁としてのジャウイ、橋としてのジャウイ －

東南アジア史学会第68回研究大会第2日目の会員自由企画として、ジャウイ文書研究に関するシンポジウムを以下のとおり開催します。どなたでも参加できますので、ぜひご出席ください。

**日時：2002年12月1日(日) 9:30-12:30**

**場所：岡山大学文学部**（津島キャンパス）文・法・経1号館3階文学部会議室  
（岡山市津島中3-1-1）

## <プログラム>

1. 川島緑（上智大学）  
「見えない仕切りを開けて ―ジャウィ文書研究の意義と課題―」
2. 西尾寛治（東京女子大学）  
「マレー語圏におけるジャウィの概念」
3. 國谷徹（東京大学大学院）  
「植民地支配下のジャウィ研究  
―蘭領東インドおよび英領マラヤを事例として―」
4. 服部美奈（岐阜聖徳学園大学）  
「西スマトラのジャウィ文書 ―20世紀前半のイスラーム関連出版物から―」
5. 菅原由美（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同研究員）  
「ジャワ社会におけるペゴン使用の意味」
6. 山本博之（東京大学）  
「ジャウィ誌『カラム』から見た1950年代のマレー・イスラーム圏」

## <趣旨説明>

ジャウィとは一般的に、マレー語のアラビア文字表記を意味するが、ここではジャウィの概念を一般的な用法より広くとらえ、ジャワ語、スンダ語、ブギス語、タウスグ語、マラナオ語なども含む、東南アジア現地語のアラビア文字表記という意味で用いる。

日本ではこれまで、ジャウィ文書はほとんど研究に利用されてこなかった。研究者の多くは、関心の欠如からその重要性を認識せず、ジャウィ文書は「存在すれど見えないもの」として無視されて続けてきた。だが、ジャウィ資料は以下の点で重要である。

1. ローマ字表記が普及する以前の時期や、浸透が遅れた地域や社会階層の人々が書き著し、読み、伝えてきた文書であり、これらの社会を理解するために不可欠な資料である。
2. イスラーム関係文書の多くがジャウィで書かれているので、東南アジアのイスラーム思想、イスラーム知識人、民衆イスラームの研究にとって、基本的な一次資料である。
3. さまざまな地域や時代のジャウィ資料の比較検討により、東南アジア地域内部の多様性や、多様なもの間のつながりを、資料に即して具体的に明らかにすることができる。
4. アラビア語圏やペルシア語圏（中東・南アジア、および、東南アジア各地の中東・南アジア出身者コミュニティ）とのつながりを具体的に示す資料としての意味を持つ。

従って、ジャウィ文書を積極的に研究に利用することにより、個別の地域社会の研究を深めることができるとともに、ジャウィを共有する人々が、個々の地域社会や政治組織体の枠組みを越えて形成してきた絆を実証することが可能になる。そしてそれは、東南アジア、南アジア、中東という既成の地域概念を相対化する可能性を持っている。この企画はその出発点である。6つの先駆的な報告をきっかけとして、ジャウ

ィ文書研究の可能性、問題点、その克服方法について、参加者とともに自由に活発な議論を行いたい。〈川島緑〉

### III. マレーシアの図書館におけるジャウイ雑誌の所蔵状況：

#### マレーシア国立図書館およびマラヤ大学ザアバ記念図書室

山本博之（東京大学）

本リストは、マレーシア国立図書館(Perpustakaan Negara Malaysia)およびマラヤ大学内のザアバ記念図書室(Perpustakaan Peringatan Za'ba)に所蔵されているジャウイ表記マレー語の定期刊行物（以下、「ジャウイ雑誌」）のうち、筆者が2002年8月に両図書館／室で確認したものの一覧である。

この2つは、クアラルンプール市街から近く、しかも外国人訪問者でもその場で登録すれば利用できるという点で利用しやすい図書館／室であり、そこでのジャウイ雑誌の所蔵状況をまとめることは、ジャウイ雑誌を利用した研究を行う上で役立つであろう。以下のリストにおいて、項目によっては記載が不完全なものもあるが、今回は調査に費やせる日数が限られている状況で全体の様子を掴むことを優先したためである。これらの項目は今後の追調査によって補われるであろう。

なお、両図書館／室の利用方法等については、<<http://www.pnm.my/>>（マレーシア国立図書館）および<<http://www.umlib.um.edu.my/ZABA.HTM>>（ザアバ記念図書室）を参照されたい。

以下、今回の調査にあたって気づいたことをいくつか記しておきたい。

(1)今回調査した2つの図書館／室を比べると、圧倒的にザアバ記念図書室の方がジャウイ雑誌の所蔵量が多かった。今回の調査で確認できた32誌のうち、ザアバ記念図書室の所蔵は30誌、マレーシア国立図書館の所蔵は5誌であり、ザアバ記念図書室になくてマレーシア国立図書館にあるのは『Pengasoh』と『Utusan Qiblat』の2誌のみであった。両方に所蔵されているのは『Dian』『Mastika』『Qalam』の3誌であるが、いずれもザアバ記念図書室の方がマレーシア国立図書館よりも多く巻号を所蔵している。なお、ザアバ記念図書室には、マラヤおよびシンガポールで出版されたジャウイ雑誌だけでなく、カイロ発行の『Pilihan Timour』も創刊号から停刊した最後の号まで所蔵されている。

(2)ローマ字からジャウイへの切り替えについて。今回確認できた32誌の多くは1960年代前半以前（しかも1963年9月のマレーシア結成の頃まで）に発行されていたものである。それぞれの停刊時期はわかっていないが、所蔵状況を考えるとその多くが1963年までに発行をやめていたと推測される。また、1960年代後半以降も発行が続いたものでも、『Mastika』は1967年2月号をもって全面的にローマ字に切り替

え、また、『Dian』は1970年からジャウィとローマ字のそれぞれによる発行を経て1973年にローマ字による発行に一本化した。大まかな流れとして、ジャウィ雑誌は1950年代以降にはほとんど創刊されず、それまでに創刊されていたものも1960年代末頃までに停刊するかローマ字に切り替えるかしていたとすることができる。なお、『Qalam』は1969年10月に停刊しているが、停刊の原因は発行者エドルススの死去にあり、最後までローマ字化の動きが見られなかったことから、1960年代末にジャウィによる発行をやめた雑誌に含めるべきではないだろう。

他方、ジャウィ雑誌として新たに創刊されたものとしては、ローマ字による『Panji Masyarakat』のジャウィ版として1977年に創刊された『Panji Islam』や、1978年創刊の『Utusan Qiblat』がある。このほかに、1950年代以前に創刊され、1970年代以降も一貫してジャウィによる発行を維持しているものとして、クランタン州発行の『Pengasoh』(1926年ごろ創刊)およびジョホール州発行の『Warta Jabatan Ugama Johor』(1949年ごろ創刊)がある。これらのジャウィ雑誌は、『Panji Islam』を除けば、いずれも少なくとも1990年代まで(『Warta Jabatan Ugama Johor』は1982年まで)の発行が確認されている。

(3)いくつかのジャウィ雑誌には、「sahabat」などと呼ばれる読者サークルの企画が見られる。創刊すると「sahabat」への入会が誌上で呼びかけられ、これに応募した読者の名前と連絡先が毎号掲載される。これは読者を確保する上で有効な手段であったと思われ、いくつかのジャウィ雑誌で同様の企画が行われていた。特にカラム出版社発行の雑誌には、『Anika Warna』の「sahabat Anika」や『Muda-Mudi』の「sahabat Muda-Mudi」などのようにこの種の企画が多い。なお、『Qalam』では1956年にムスリム同胞団の設立が呼びかけられ、呼びかけに応じた読者の名前と連絡先が毎号掲載されるが、これは「sahabat」から着想を得たとも考えられる。さらに1930年代に発行されていた『Paspam』誌上の「sahabat Pena」とも関係していると考えられ、今後の調査課題としたい。

## マレーシア国立図書館およびマラヤ大学ザアバ記念図書室におけるジャウィ雑誌の所蔵状況

- ◇以下のリストでは、誌名、創刊時期、編集者名、発行者名(所在地)、形態、内容、備考、所蔵の各項目を挙げた。ただし、情報不足などの理由で記載内容がない項目は省略した。
- ◇誌名は、ローマ字表記の場合はそのまま、ジャウィ表記の場合はローマ字に翻字した。ジャウィ表記のものでローマ字表記が確認できるものはそれにしたがったが、それ以外では現在のマレーシアで一般に用いられている綴りとした。
- ◇形態の欄には、発行頻度、判型、ページ数を記した。これらのいずれかが途中で変わった場合は矢印で変化の様子を示し、変化が確認できた最初の号の発行年をカッコで示した。判型はA4判やB5判などで示し、横長のものは「横」を沿えた。所蔵されているものがすべて複写である場合は空欄とした。ページ数は必ずしも一定していないものも少なくなく、おおよそのページ数を記した。表表紙や裏表紙にペー

ジ番号が入っていない場合には、「+表 2」「+表 4」などのようにページ番号が入っていないページ数を示した。

- ◇内容の欄には、表紙や目次などにキャッチフレーズが書かれているものはそれを引用し、それ以外についてはわかる限りで内容を紹介した。
- ◇備考の欄には、ジャウィ表記からローマ字表記への切り替えの時期や、読者サークルの呼びかけと会員名簿の掲載の有無などを記した。
- ◇所蔵の欄には、マレーシア国立図書館(PNM)とザアバ記念図書室(PPZ)を区別し、それぞれ請求番号および所蔵の巻号（発行年月）を記した。巻号の表記は、jilid(巻)を jld.、bilangan(号)を bil.などと適宜略し、さらに、明らかな場合には、例えば第 2 巻第 3 号を「2:3」のように略した。なお、tahun(年、thn.)のように巻号を示すのに別の語が使われている場合はそれにしたがった。合冊の状態で所蔵されている場合は、丸囲み数字で合冊ごとに所収巻号を示した。ただし、合冊が多数に上る場合は最初と最後の数冊分だけ示した。
- ◇本リストに挙げられているのは以下の 32 誌である。配列は、（語頭の al は無視して）誌名のローマ字表記の順にしたがった。

Anika Warna

Dian

Fashion

al-Hedayah

Hiboran

al-Ikhwan

al-Imam

Juita

Kemajuan Melayu

Kesah

Majalah al-Riwayat

Malaya

Malaya Merdeka

Mastika

Muda-Mudi

Mutiara

Panca

Panji Islam

Pantai Timur

Pengasoh

Pilihan Timour

Pusparagam

Qalam

al-Raja'

Seni

Suara Kalam  
Suara Merdeka  
Taman Paspam  
Tanah Melayu  
Tunas Melayu  
Utusan Qiblat  
Warta Jabatan Ugama Johor

**誌名 : Anika Warna**

創刊 : 1954 年 10 月

編集 : A.H.Edrus

発行 : Qalam Press (シンガポール)

形態 : 月刊、B6 判、毎号 70~80 ページ

内容 : 西洋人女性モデルの写真を織り込んだゴシップ記事など。水着や半裸などの扇情的な写真も掲載。

備考 : bil.1 で読者サークルの *sahabat Anika* を募集、bil.2(1954.11)より *sahabat Anika* の名簿を掲載。初回は 33 人、以後、毎月 20 人程度を掲載。

所蔵 : PPZ 開架[AP95 M2AW]  
bil.1(1954.10)~bil.48(1958.10)

**誌名 : Dian**

創刊 : 1961 年 8 月

編集 : Yussuf Zaki Yacob

発行 : Pustaka Dian Press (コタバル)

形態 : 隔月刊、B5 判、毎号 150 ページ程度

内容 : 「Majalah bulanan ilmiah dan daijes Melayu yang ulung, dalam naskah Rumi dan Jawi」

備考 : 1970 年 8 月号(bil.32)からローマ字版が登場。ジャウイ版で確認されているもののうち最後の号は 1973 年(bil.63)。ただしローマ字版には 1973 年(bil.65)までローマ字版とジャウイ版の両方の講読料が掲載されている。1976 年 1・2 月号(bil.84)から説明中の「dalam naskah Rumi dan Jawi」(「ローマ字とジャウイによる」)がなくなる。

所蔵 : PNM 開架[MS059.9923MD]  
1964 年 1・2 月(thn.3, bil.1)~1973 年 11・12 月(bil.63) (ジャウイ)  
1974 年(bil.67)~1984 年 6 月(bil.159) (ローマ字)  
PPZ 開架[AP93M2MD]  
~1984 年 10 月号

**誌名 : Fashion**

創刊 : 1953 年 6 月

編集 : R.M. Yusoff

発行：Harmy（シンガポール）  
形態：月刊、B5判、毎号16ページ+表4  
内容：「The first Malay Fashion Magazine」  
所蔵：PPZ開架[TT500Fa]  
bil.1(1953.10)～bil.506(1963.10.20)

**誌名：al-Hedayah**

創刊：1923年6月  
編集：Mohd. Gazali  
発行：不明（コタバル）  
形態：月刊、B5判、毎号24ページ+表4  
内容：「A Monthly Malay magazine published in Kota Bharu, Kelantan」  
備考：表紙は、クランタンに星があり、そこからマラヤ各地に光が届いている様子を  
描いたもの。マラヤ(Semenanjung Tanah Melayu)には Siam も入っている。ペー  
ジは毎年第1号から第12号まで通しページ。  
所蔵：PPZ開架[AP95 M2He]  
①bil.1(1923.6)～bil.12(1924.5)  
②tahun.2, bil.1(1924.6)～tahun.2, bil.12(1925.2)

**誌名：Hiboran**

創刊：1946年1月  
編集：Harun Aminurrashid  
発行：Royal Press（シンガポール）  
形態：月刊、B5判横、毎号24ページ+表2→週刊、B6判、44ページ(1948)  
所蔵：PPZ開架[AP95 M2Hi]  
①bil.10(1946.10)～13(1947.1)、26(1947.8)  
②57(1948.9.18),63,68,81-85,88,89(1949.4.30)  
③91(1949.5.14),93,98,161,178,186,187,190(1951.4.7)  
④98(1949.7.2)～124(1949.12.31)  
（この間、年3冊）  
○281(1953.1.3)～306(1953.6.27)

**誌名：al-Ikhwan**

創刊：1926年9月16日  
発行：Jelutong Press（ペナン）（所有は al-Syed Syekh bin Ahmad al-Hadi）  
形態：月刊、B5判、毎号20ページ程度  
内容：「Majalah pelajaran, pengetahuan, perhimpunan, perkhawaran」  
備考：第3号に「新聞のように読み捨てできるものとは違うため、毎号通しページを  
つけることにした」とメモ書きあり。第3号から年間を通じた通しページに。  
所蔵：PPZ開架[AP95 M2Ik]

- ①tahun.1, pengal.1(1926.9)~thn.1, pgl.3(1926.11)
- ②2:2(1927.10)、2:8(1928.4)、3:2(1928.10)~6:4(1931.12)
- ③3:9(1928.7)

**誌名 : al-Imam**

創刊 : 1906 年 7 月

発行 : al-Imam Printing Company (シンガポール)

形態 : 月刊、B5 判、毎号 40 ページ程度

内容 : 「A monthly publication」

所蔵 : PPZ 開架[AP95 M2Im]

- ①jld.1, bil.1(1906.7)、2:9(1908.3)、3:1~3:6(1908.11)
- ②2:1(1907.7)~2:12(1908.6)

**誌名 : Juita**

創刊 : 1948 年 10 月

編集 : Abd. Ghani Abdullah

発行 : Malay Press (ヌグリ・スンビラン州クアラ・ピラー)

形態 : 月刊、B5 判、毎号 30 ページ程度

内容 : Cerita Bulanan

所蔵 : PPZ 開架[AP95 M2J]

- ①bil.2(1948.11)、bil.4(1949.1)~bil.6、jld.2, bil.3(1949.11)※
- ②3:7(1951.4)~3:9(1951.6)
- ③4:2(1951.11)~4:12(1952.9)
- ④5:1(1952.10)~5:6(1953.3)

※この後、Mastika の bil.26(1948)、bil.31(1949.5)~bil.38 が綴じられている。

**誌名 : Kemajuan Melayu**

創刊 : 1932 年 4 月

発行 : al-Ahmadiyah Press (シンガポール)

形態 : 月刊、A4 判、毎号 52 ページ程度

所蔵 : PPZ 開架[AP95 M2KM]

bil.1(1932.4)~bil.4(1932.7)

**誌名 : Kesah**

創刊 : 1956 年 8 月

編集 : Haji Abdullah bin Ali

発行 : Royal Press (シンガポール)

形態 : 月刊、B6 判、毎号 98 ページ程度

所蔵 : PPZ 開架[AP95 M2Ke]

bil.1(1956.8)~bil.14(1957.2)

**誌名 : Majalah al-Riwayat**

創刊 : 1938 年 11 月 1 日

発行 : Matbaat al-Maaraf (クランタン州コタバル)

形態 : 隔週刊、B6 判、毎号 72 ページ程度

内容 : 「Pertelingkahan engan2 di antara orang berniaga dengan orang makan gaji」

所蔵 : PPZ 開架[AP95 M2MR]

bil.1(1938.11.1)~bil.5(1939.1.1)

**誌名 : Malaya**

創刊 : 1926 年 5 月

編集 : Mohd. Younus Abdul Hamid

発行 : 不明 (ペナン)

形態 : 月刊、A4 判横、毎号 20 ページ程度

内容 : 「Malay illustrated journal」

所蔵 : PPZ 開架[AP95 M2Mal]

①jld.1 bil.1(1926.5)~1:9(1927.1)、2:2(1927.2)~2:4、2:8/9(1927.8/9)

②1928.1~12、~3:3(1931.5)

**誌名 : Malaya Merdeka**

発行 : Ibu Pejabat UMNO Malaya (クアラルンプール)

形態 : 隔週刊、B4 判、毎号 16 ページ程度

内容 : 「Suratkhbar kebangsaan tengah bulanan」

所蔵 : PPZ 開架[AP95 M2MM]

jld.9, bil.13(1963.8.15)、9:14、9:15

**誌名 : Mastika**

創刊 : 1941 年ごろ

発行 : Utusan Melayu Press (クアラルンプール)

形態 : 月刊、B5 判[1972~85、1995~は B6 判]、毎号 52 ページ程度

内容 : 「Bulanan pengetahuan dan pendidikan」

備考 : 1967 年 1 月号までジャウィで出版。同年 2 月号からローマ字に切り替え、現在に至る。

所蔵 : PNM 開架[MS059.9923M]

1963 年 1 月号~2002 年+

PPZ 開架[AP95 M2Ma]

①bil.26(1948)、bil.31~bil.38 (※Juita 誌の項目を見よ)

②bil.56(1951.6)、1952.3、1952.4、1952.11、1953.1、1953.6、1954.4、1954.7、1954.8

③1955.2~12

(以下、現在に至る)

**誌名 : Muda-Mudi**

創刊 : 1960 年 7 月

発行 : Qalam Press (シンガポール)

形態 : 週刊、B5 判、毎号 30 ページ程度

備考 : bil.4 に読者サークル sahabat Muda-Mudi の名簿が 11~16 番まで掲載されている。

所蔵 : PPZ 開架[AP95 M2MM]

bil.4(1960.8.10)、bil.9、10、17、18、20、21

**誌名 : Mutiara**

編集 : Harun Aminurrashid

発行 : Harmy (シンガポール)

形態 : 月刊、B5 判横、毎号 28 ページ程度

所蔵 : PPZ 開架[AP95 M2Mu]

bil.16(1950.2)~bil.176(1963.6)

**誌名 : Panca**

創刊 : 1961 年 11 月

編集 : Yusni Amir

発行 : Annies (ジョホール州ジョホール・バル)

形態 : 月刊、B5 判、毎号 26 ページ程度

内容 : 「Majalah bulanan bacaan dengan muda-mudi」

所蔵 : PPZ 開架[AP95 M2Pa]

jld.1, bil.1(1961.11)~jld.1, bil.3(1962.1)

**誌名 : Panji Islam**

創刊 : 1977 年 1 月

編集 : Ahmad Dasuki、Othman Ahmad

発行 : Salim Press (クアラルンプール)

形態 : 月刊、B6 判、毎号 52 ページ+表 4

備考 : ローマ字版の Panji Masyarakat 誌の姉妹誌

所蔵 : PPZ 開架[BP1 Pa]

thn.1, bil.1(1977.1)~thn.1, bil.4

**誌名 : Pantai Timur**

創刊 : 1962 年 10 月

編集 : Ismail Syuki Haji Ahmad

発行 : Pustaka Aman Press (クランタン州コタバル)

形態 : 月刊、B5 判、毎号 42 ページ程度

内容：「bulanan ilmiah, kebudayaan, kesenian, perniagaan, pelancongan dan hiburan bergambar」

所蔵：PPZ 開架[AP95 M2MPT]  
bil.1(1962.10)～bil.11(1963.8)

**誌名：Pengasoh**

創刊：1926 年ごろ

編集：Mohd. Adnan bin Mohd. Arifin (1949)→Yaakub bin Hj. Hasan (1967)→Yusuf Zaki Yaakob (1976)

発行：Majlis Ugama Islam Kelantan (クランタン州コタバル) (1949)→Majlis Ugama Islam dan Adat Istiadat Melayu Kelantan (1967)

形態：週刊、A4 判横、毎号 12 ページ+表 4(1949)→月刊、B5 判、28 ページ(1967)→62 ページ+表 2(1976)

内容：「Mengandung seruan agama Islam, pelajaran, didikan, iktisad dan pengetahuan am.」

所蔵：PNM 開架[MS297.05Pf]

①jld.23, bil.147(1949.3.3)～jld.23, bil.162(1949.7.14)

②jld.24, bil.169(1949.9.1)～jld.22, bil.200(1950.4.6)

③jld.25, bil.215(1950.8.14)

④351(1967.2)～370(1968.9)

⑤371(1968.10)～390(1970.8)

⑥416(1976.6・7)～420(1976.12)

⑦429(1978.1)～434(1978.6)

⑧448(1980.1)～452(1980.6)

⑨473(1984.1)～483(1986) (年 3 回発行)

⑩510(1991.3)～520(1992.6) (1、2 ヲ月に 1 回発行)

**誌名：Pilihan Timour**

創刊：1927 年 10 月

編集：Muhammad Lutfi

発行：カイロ

形態：月刊、B5 判横、毎号 20 ページ程度

所蔵：PPZ 開架[AP95 M2PT]  
jld.1, bil.1(1927.10)～jld.2, bil.8(1928.10)

**誌名：Pusparagam**

創刊：1960 年 4 月

発行：Qalam Press (シンガポール)

形態：月刊、B6 判、毎号 84 ページ程度

内容：写真入りの映画のストーリー紹介

所蔵：PPZ 開架[AP95 M2PR]

bil.5(1960.9)、bil.7(1960.11)～bil.13(1961.7)

**誌名：Qalam**

創刊：1950年8月

編集：A.H.Edrus

発行：Qalam Press（シンガポール）

形態：月刊、B5判、毎号40～50ページ

備考：創刊は1950年7・8月号。1968年1月号(bil.207)より発行所がスランゴール州プタリン・ジャヤに移る。1969年10月にエドルス死去に伴い停刊。

所蔵：PNM 開架[MS297.05Q]

bil.188(1966.3)～228(1969.10)

PPZ 開架[BP1 Q]

bil.1(1950.7・8)～228(1969.10)（一部欠号あり）

**誌名：al-Raja'**

創刊：1927年

発行：Abbas Rafik Office（ペナン）

形態：ほぼ月刊、毎号26ページ+表4

所蔵：PPZ 開架[BP1 Ra]

thn.2, bil.1(1928.7.3)～thn.2, bil.3、thn.2, bil.5(1928.9.30)

**誌名：Seni**

創刊：1953年9月

編集：Abdullah bin Ally

発行：Royal Press（シンガポール）

形態：月刊、B5判、毎号36ページ程度

内容：「The first Malay monthly art magazine」

所蔵：PPZ 開架[AP95 M2Se]

jld.1, bil.2(1953.10)～jld.1, bil.11(1954.8)

**誌名：Suara Kalam**

創刊：1936年1月

編集：Abdul Wahab Zain

発行：Persama Press（ペナン）

形態：月刊、B5判

内容：「Kalam itu terlebih tajam daripada pedang」

所蔵：PPZ 開架[AP95 M2SK]

bil.1(1936.1)

**誌名 : Suara Merdeka**

創刊 : 1957 年 4 月

編集 : Salleh Haji Eusope

発行 : Geliga (シンガポール)

形態 : 月刊、B5 判、毎号 44 ページ程度

所蔵 : PPZ 開架[AP95 M2SM]

bil.1(1957.4)~bil.12(1958.3)

**誌名 : Taman Paspam**

創刊 : 1940 年

編集 : Bahnan bin Yusuf

発行 : Lembaga Bahasa Paspam

形態 : 年刊、200 ページ

内容 : 「Mengandung berbagai2 pengetahuan am.」

備考 : 第 1 巻のみ

所蔵 : PPZ 開架[AP95 M2TP]

thn.1(1940)

**誌名 : Tanah Melayu**

創刊 : 1933 年

編集 : Sulaiman bin Ahmad

発行 : Ahmad Press (シンガポール)

形態 : 月刊、毎号 20 ページ+写真 4+表 2

内容 : 「The leading illustrated Malay magazine read by all classes of Malays throughout Malaya.」

備考 : 発行部数は 4000 部

所蔵 : PPZ 開架[AP95 M2TM]

bil.9(1934.7)~bil.30(1936.4)

**誌名 : Tunas Melayu**

創刊 : 1913 年 2 月

編集 : Abbas bin Mohd. Taha

発行 : 不明 (シンガポール)

形態 : 月刊、毎号 10 ページ

所蔵 : PPZ 開架[AP95 M2Tun]

thn.1, nom.1(1913.2.12)~nom.12、thn.2, nom.1~nom.4

**誌名 : Utusan Qiblat**

創刊 : 1970 年 2 月ごろ

編集 : Mustapha Suhaimi (1979)

発行：Utusan Melayu Press（クアラ Lumpur）

形態：月刊、B5判、毎号 72 ページ+表 4

内容：「Mendokong cita2 bertakwa」

所蔵：PNM 開架[MS297.05UQ f]

①bil.91(1978.1)～100(1978.11)

②125(1981.1)～136(1981.12)

③137(1982.1)～148(1982.12)

④1983.2～1983.6（A4判）

⑤1983.7～1983.12

⑥1984.1～1984.12

⑦1985.1～1985.12

（中略）

⑬1991.1～1991.6

**誌名：Warta Jabatan Ugama Johor**

創刊：1949年10月ごろ

発行：Jabatan Ugama Johor

形態：月刊、B5判、毎号 16 ページ程度

備考：1967年1月(bil.166)より、最後の数ページに ruangan kanak2 というローマ字のページが登場する。

所蔵：PPZ 開架[BP10 JJUW]

①thn.1, bil.10(1950.7)、thn.2, bil.13(1950.10)、thn.2, bil.15

（中略）

○～thn.33, bil.344(1982.12)

### III. 研究会記録

#### 第14回研究会

日時：2002年10月12日（土）13:00-19:00

場所：上智大学四ッ谷キャンパス 10号館 3階 322号室 出席者：13名

#### 1. ジャウイ誌「カラム」記事の見出し講読

レジュメ担当者：西芳実（東京大学大学院）

山本博之氏が提供した講読テキスト、「カラム」誌記事の見出し 32 点の翻字、翻訳を検討した。「カラム」誌は 1950 年代にシンガポールで発行されたジャウイ誌である活字で印刷された日本語や欧語の新聞雑誌の見出しとは異なり、手書きで、しかも

装飾が付されていたり、図案化されているものもあるので、アラビア文字にかなり慣れていないと意外に読みにくい。欧米や中東、インドネシアやフィリピンのムスリムに関する記事の見出しが含まれており、記事の内容に対する興味をかきたてられた。

「カラム」を資料として用いた研究の例としては、本研究会における山本博之氏の報告（要旨は本ニューズレター第1号14-15ページに掲載）がある。次回研究会では「カラム」誌掲載記事を実際に読む予定である。〈川島緑〉

## 2. マレー語圏におけるジャウイの概念

西尾寛治（東京女子大学）

本報告では、マレー語圏における「ジャウイ」という概念の歴史的展開について、表記法としてのジャウイ、民族のカテゴリーとしてのジャウイという二つの側面からの検討がなされた。

はじめに、「マレー（ムラユ）世界」という地域世界の定義に関して、まずこれをインド洋海域世界の中の一つの境域として位置付け、さらにマレー世界の特徴をイスラームとマレー語、およびマレーの慣習という3つの要素によって表現する考え方が提示された。ここでは、マレー世界が、そのインド洋海域世界の中における位置付けのゆえにハイブリッドな文化を生み出してきたことが指摘された。

ついで、まず表記法としての「ジャウイ」の歴史的展開について、「マレー世界」の形成・発展と関連させながら分析が行われた。報告者はヌル・アル・ディン・アル・ラニリ、アブドゥラー・ビン・アブドゥル・カーディルという二人のアラブ人を例に取り、彼らがジャウイを用いた著作によって、西アジアと東南アジアとの媒介、あるいは植民地支配と現地社会との媒介としての役割を果たしたことを示そうと試みた。アル・ラニリについては、ハムザ・ファンズーリらとのイスラームの教義をめぐる論争について、また彼が執筆したイスラーム神学、法学その他に関する多数のキターブ・ジャウイについての説明がなされた。またアブドゥラー・ビン・アブドゥル・カーディルについては、彼がタミル人的な容貌とアラブ人としての自意識を持っていながら、マレー語を高く評価し、マレー人としての帰属意識を持っていたことが紹介され、彼がイギリス領シンガポール、ムラカで語学教師や通訳を務めたこと、またマレー王権や社会に対する批判的著述を行っていたことが説明された。他にもマルスデンやクロフォードの著作や「ヒカヤット・アブドゥラー」などにおいて「ジャウイ」がどのように説明されているかの事例が紹介された。

第二の民族のカテゴリーとしてのジャウイについては、「マレー人」というカテゴリーとの対比において説明がなされた。ここでは、イブン・バトゥータに始まり、20世紀に至るまでの幾つかの事例が紹介され、民族的呼称としての「ムラユ」と「ジャウイ」がどのように使用されてきたのかが示された。特に、19世紀のペナンやクダーにおいて、Jawi Pekan（街に居住するジャウイ）という語が外来の（特にインド人）ムスリムを指す語として使用されていたこと、また混血のジャウイを意味する Jawi Peranakan という語が出現してくることなどが注目された。

結論として、(1) 表記法としてのジャウィについては、それが西アジアと東南アジア、あるいは植民地支配者と在地社会を媒介する役割を果たしながら、イスラームの浸透と共通語としてのマレー語の地位の発展に寄与し、「マレー世界」の形成と発展を促す働きをした、と説明された。一方、(2) 民族のカテゴリとしてのジャウィについては、(1) の変化に対応して変化が起こった可能性が指摘され、「ジャウィ」から「マレー人」へという呼称の変化が起こる一方で、従来在地のムスリムを指す語であった「ジャウィ」が外来のムスリムを指す語へと変化した可能性が示唆された。

質疑応答では多岐にわたる問題が提出されたが、結論の(1)については、この結論が「マレー世界＝ジャウィが使用された世界」という定式化を意図したものであるのか、という質問がなされた。これに対して報告者は、そこまで明確な定式化は意図しておらず、文字表記の獲得によってマレー語の共通語としての地位が維持され、発展したという点を指摘したに過ぎない、と回答した。さらに関連して、アラビア文字以外の文字が使用されるという可能性が存在しなかったのか、という点が問題とされたが、これに対しては、現実には14世紀以降ヨーロッパの影響を除いてはアラビア文字以外の表記法は見られないこと、イスラームとの結びつきにおいてアラビア文字が特異な地位を得ていたことが指摘された。

結論の(2)については、報告者が挙げた個々の事例はそれぞれ個別の立場からなされた言説であり、それらの特殊性を考慮することなしに民族的概念の変化という結論を引き出し得るのか、という疑問が提出された。これについては、報告者はいまだ分析が不十分であることを認めた。特に Jawi Peranakan という語については、同名の新聞が発行されていたことが知られており、それらの分析によって概念の更なる検討が可能であろうことが指摘された。最後に、結論(1)と(2)との関連性についても質問がなされたが、この点についても更なる概念の整理が必要であるように思われた。〈國谷徹〉

### 3. 西スマトラのジャウィ文書 —20世紀前半のイスラーム関連出版物から— (中間報告)

服部美奈 (岐阜聖徳学園大学)

西スマトラではアラビア文字表記のマレー語をアラブ・ムラユ (Arab-Melayu) と呼ぶ。発表者はまずオランダ植民地時代に進められた西スマトラのアラブ・ムラユ文書の研究史を Gerard Moussay の研究に基づいて概説をおこなった。Moussay によると、アラブ・ムラユ文書の研究はパドリ戦争後に始められ、研究史は大きく二期に別れる。第一期は1870-1900年に J.L. van der Toorn などによって進められ、主にアラブ・ムラユの翻字方法が模索された時期であった。第二期は第一期から20年ほど間をあげ、1920-1935年にカタログ編集と辞書の作成が中心に行われた。カタログ編集は、第一期の Toorn の翻字を基本とし、S. van Ronkel によっておこなわれた。1935年には M. Thalib gl. St. Pamoentjak によってアラブ・ムラユ文字のミナンカバウ語の辞書 *Kamoes Bahasa Minangkabau / Bahasa Melayoe-Riau* が出版された。

次に、西スマトラでイスラーム改革運動が盛んであった 20 世紀前半のイスラーム関連出版物とその使用文字について解説がなされた。1911-1920 年に、西スマトラではイスラーム系雑誌が 9 誌発行されており、その全てがアラブ・ムラユを使用していた。9 誌中 8 誌は、近代イスラーム学校が発行したものであり、1 誌のみが伝統的プサントレンから出版されていた。アラブ・ムラユを用いた雑誌はタレカット及び慣習（アダット）を批判し、イスラーム改革思想を普及させることを目的としていた。西スマトラで最初に発行されたイスラーム雑誌「アル・ムニール」は、エジプトで発行されていたイスラーム改革派の雑誌「アル・マナール」から強い影響を受けていた。

この時期の雑誌の編者は 19 世紀後半にミナンカバウで教育を受け、メッカで研鑽を積んだ世代であり、植民地政府系の学校で教育を受けていなかった。彼らは西スマトラ社会の啓蒙のために、雑誌を発行したが、彼らが対象としたのは、若い世代だけではなく、伝統的なイスラーム教育に携わるウラマー達をも視野に含めていた。従って、編者・読者両者ともにアラブ・ムラユで書かれたものにより親近感を持っていたと考えられる。

西スマトラを代表する改革派ウラマー、アブドゥル・カリム・アムルッラー（1879-1945）は、1907-1940 年の間に 30 冊の本を執筆し、そのうち 23 冊はアラブ・ムラユを用いて執筆している。

ところが、この傾向は 1921-1940 年には大きく変化し、この時期には発行されていた 27 誌のイスラーム系雑誌のうちアラブ・ムラユを使用していたのは 3 誌のみであり、他はローマ字使用となっていた。1920 年以降に、植民地政府系の学校でローマ字で学ぶ若者達の数が増え、彼らが雑誌の編集を担うようになっていったことが、アラブ・ムラユは次第に使用されなくなっていった理由であると発表者は推測した。

出席者からは、イスラーム改革運動が盛んであった 1900-1920 年の間に研究が進まなかったのはなぜか、ローマ字への翻字と文章上でのミナンカバウ語・マレー語の差異化は関係があるか、ミナンカバウ語概念の成立はいつか、近代派または改革派、伝統派という用語の使い分けはどうか等の質問が出た。〈菅原由美〉

このニュースレターはジャウイ文書研究会の記録、および、ジャウイ文書研究に役立つ情報提供を目的としており、研究会出席者に会場で配布しています。研究会に出席できない方でこのニュースレターの入手を希望される方は、希望する号を明記し、あて先を記入し、240 円切手を貼った A-4 サイズ返信用封筒を同封の上、お申し込みいただければ、郵送いたします。なお、研究工具や資料、文献の紹介、研究報告など、投稿を希望される方は、事務局にご連絡ください。

ジャウイ文書研究会ニュースレター 第 7 号

(2002 年 11 月 8 印刷)

2002 年 11 月 9 日発行

上智大学アジア文化研究所 川島緑研究室

発行者：ジャウイ文書研究会事務局

〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町 7-1

電話：03-3238-3697 Fax：03-3238-3690

e-mail：midori-k@sophia.ac.jp